

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700733		
法人名	有限会社 とまり商事		
事業所名	グループホームはればれ	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県北諸県郡三股町稗田46-13		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&kyogyoCd=4571700733-004PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食前の口腔体操
・毎日のレク・体操

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者をはじめ10年以上勤務している職員が多く、家庭的な雰囲気の中で全職員がセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を使い、理念に沿った「利用者が能力を最大限に発揮できるような支援」に努めている。また、地域密着型サービスの意義を踏まえ自治会に加入しており、毎月ホームだよりを回覧したり、地域の行事に利用者の作品を展示するなどしている。食事に関しては、毎食前に口腔体操を行い、伝統、季節の慣わしを大切にしておせち料理や七草がゆなどを一緒に作りながら利用者の五感を刺激し、感性を呼び起こして満足した暮らしができるよう支援している。医療面でも母体である医院から定期的な往診があり、訪問看護などの協力体制も整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示、共有実践している ミーティング時、理念を確認		具体的な理念を作り、玄関に掲示している。 会議やミーティングの中で理念について話し合い、全職員が唱和して共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治体に参加 ・地域の行事に参加 ・毎月のホームだよりを回覧している		自治会に加入しており、回覧板に毎月「はればれ通信」を載せている。日常的に近隣を散歩し、住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをもらうなどしている。傾聴ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・年一回、町の祭りに作品出展 ・地域ボランティアとの交流がある			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営状況報告、参加される自治会長、町の担当者との情報交換をしている		年6回定期的に行い、運営状況を報告し、また、多くの地域情報や意見・助言が出されている。緊急時にホーム外でも利用者の名前が分かるよう、首から下げる名札を作成したらどうかとの意見があり、早速作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・月一回、予約者の現況報告相談もしている		運営推進会議に毎回出席してもらっている。月に1回は介護支援専門員が町役場を訪問し、また、役場主催の研修に出席するなど、何でも相談できる協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はしないケアを目指している ・門扉・玄関の施錠はしていない(夜間のみ施錠)		ミーティング等で勉強会を行い、全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中は門扉や玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待は行わない、行っていない ・スタッフ全員十分理解している			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・パンフレットの提示 ・個々の必要に応じて家族への相談を支援する			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に家族への十分な説明を図っている ・家族の不安などを聞き、納得いかれるように説明し、理解を得るように努めている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、入居者や家族の思いを傾聴する ・地域関連の方々との話し合いの場を設けている		来訪時に何でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。また、各居室の入り口横に連絡用の大きい紙を下げており、訪問者との連絡に役立てている。出された意見や要望は可能な限り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・意見や質問等が出た場合、相談に応じている		管理者は、日頃から職員の意見や要望、相談ごとなどに耳を傾けている。代表者は職員の意見を聞き、シャワーチェアや風呂場の暖房など備品の購入に敏速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・スタッフの個々の勤務状況を把握して気持ちよく働くことのできる職場づくりができている ・無理のない勤務体制で調整している			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修後、情報の共有をしている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修、勉強会への参加でスタッフへ情報提供をし、ケアの向上を図っている			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・予約時家族の方より状況を聞き、ホーム内での生活を説明・面接 ・家族より希望の確認を行う			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・予約時、家族の不安などを聞き、ホーム内で実践している事の説明 ・入居前に再確認を行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅サービスを含め、他グループホームや施設利用の説明を行っている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の希望、家族の状況等を傾聴 ・納得する判断をしてもらい、信頼しあえる関係を作った上で支援を行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・年間行事参加 ・面会時家族と楽しい時間を過ごす ・本人の状態を把握していただき、家族とともに支援を行う			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・事前に知り得た情報を本人との会話の時に忘れないように話題に出している		近所の方が遊びに来たり、電話が掛かってくることもある。また、家族の協力を得て、以前からの美容室に出掛けたり、買い物や墓参りに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個人個人の状況や状態を把握し、状況に応じ食卓の席移動を行っている ・長時間過ごされるソファ席の位置も常に心掛け、見守りを行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・気軽に足を運んでくださるよう、声掛けを行っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・普段の生活の中で、表情や言動から本人の希望意思を把握するよう努めている ・利用者の情報を家族からも聞き取り、少しでも思いを汲めるようともに支援する		全職員がセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を利用している。最初のアセスメントは家族に書いてもらうなど協力を得ながら情報収集をし、利用者が何を思い、何をしてほしいのかを言葉の端々や表情、行動から読み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族や知人との会話の中で得た情報を本人との会話からも把握できるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝夕のバイタルチェックや排便状況の確認 ・体操やレクリエーションでの状態を観察 ・普段の本人の行動様式の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・スタッフ全員のミーティングで情報提供を行い、現状を理解したうえで個人のケアの仕方について話し合っている		全職員でミーティングを行い、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)も活用して、日々の変化や気づきを反映した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っており、状況に応じた適切な見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録や連絡ノート記録やスタッフミーティングで情報共有することでケアに役立っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・隣接の病院への受診・往診・訪問看護を利用 ・ボランティア等の交流会を設けている			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月例で地域にグループホーム通信を配布したり、地域の清掃活動にも積極的に参加している ・また定期的に推進会議を開き、意見交換を活発に行い、地域とのつながりを大事にしている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人および家族の希望に応じた医療受診を大切にすると共に、定期的な往診や急な体調不良にも即対応している		母体医院から月に2回の定期的な往診を受けている。また、夜間緊急時や重度化した場合には、訪問看護や医院と24時間対応の協力体制を整えている。医療機関への受診は家族の協力を得て行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護により24時間対応で協力を得ている ・個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように病院との連携を図っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院や協力医との情報交換、相談が気軽にできるようになっている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期の話し合いはされており、時期を見極めて支援に取り組んでいる ・また、家族の希望があれば看取りも医師・訪問看護の協力を得ながら実施している		家族の希望があれば、医師、訪問看護などの関係者と連携を図り、看取りを行う。家族や全職員が十分に話し合い、誰がいつ見ても利用者の状態が分かるノートを作り、利用している。昨年初めての看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・軽度の応急手当は、日常の業務経験で対応している ・その他訪問看護と連携を図り、指示を受けながら適切な処置・対応を行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練を年2回実施しており、避難方法などを全職員で把握し合っている ・また自治会を通じ、地域との協力体制も日ごろより取っている		年2回、火災想定での避難訓練を消防署や警察、立会いの下、実施している。地域住民にも運営推進会議や回覧板で参加を呼びかけている。	地震などのあらゆる災害を想定して、実際に近くの避難場所まで利用者全員で行ってみるなど、地域住民参加型の防災訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・担当者会議を開き、利用者の情報交換を行い、利用者ひとりひとりの人格を認識したうえで、自尊心やプライバシーに配慮した声掛け対応を心がけている		全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重して、呼名の際は名字(姓)で呼ぶなど、プライバシーや自尊心を損ねない言葉掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者とのコミュニケーションを常に図り、本人の希望・意思を尊重し、自己決定の支援を行っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の個性やペースを大事にして、その日の体調に合わせて可能な限り希望に沿って、支援しているが、職員側のペースにあわせていただく事もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者家族の支援が得られれば、なじみの美容室に行かれるよう支援している ・化粧をされる方には、化粧品の使用状況の見守りを行っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・嗜好表を作成しており、メニューに取り入れている ・利用者の調子がいい時は、野菜の皮むきや調理準備やトレイ、テーブル拭きなどの片づけを職員と一緒にやっている		嗜好表で利用者の好みや苦手なものを把握して献立作りに活用している。利用者の力量に応じて、その時々季節や伝統を大切に料理を手伝ってもらいながら、食事が楽しいものとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・センター方式の中で利用者の一人一人の食事摂取量・水分補給量、体重の把握を行っている ・協力医療機関の栄養士の意見も参考にしながら、ホームでの食事メニューを考えている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・声掛けをして毎食後に口腔ケアをしていた ・義歯の方は夜間は外していただき、義歯洗浄を実施している			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・その日の身体状態・状況をみながら、個々の能力に応じた支援を行い、なるべくトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている		排せつチェック表で利用者一人ひとりの排せつパターンを把握したり、排せつサインを見逃さないよう努めている。トイレでの自立に向けた支援により、オムツ使用が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事にもいろいろな工夫をしたり、軽い運動を取り入れ、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・本人の体調・希望に合わせて入浴の順番を決めたり、曜日の変更にも対応したりしている ・また体調不良のときは清潔を保つため、清拭を行っている		入浴は基本的に週3回、曜日や時間が決まっている。利用者の希望があれば可能な限り対応している。入浴を拒んだり、体調不良の利用者がいれば、足浴や清拭を行うなど、対応に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ひとりひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休んでいただいたり声掛けしたりしながら、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ひとりひとりの状態を把握し使用している薬の目的や副作用・用法や用量についても十分に理解し、服薬の支援と症状観察を十分に行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ひとりひとりの能力に応じた食事療法や作業療法を取り入れ、生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・ひとりひとりのその日の希望に応じ、気分転換の為、戸外へ出かけられるよう支援している ・また普段はいけないような場所でも本人の希望を把握し、家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している		天候の良い日は散歩に出掛けたり、中庭に面したデッキで日光浴やお茶の時間を楽しめるよう支援している。外出は家族に協力をお願いしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・身の回りの事が自分で出来、お金の管理が可能な方は、少額を所持されている ・スタッフや他者との金銭トラブルがないように十分に確認を行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話・手紙など本人の意思を尊重し、いつでも取り次いでいる ・手紙はスタッフが住所確認、送り主を確認し、スタッフルームにて代理で預かっている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間や廊下など、利用者さんの塗り絵作品、スタッフが作った季節の催し物を飾り、今が何の季節なのかを感じて貰えるように工夫している ・季節毎の行事やイベントも大事にしている		リビングはゆったりとしており、採光もよく、利用者がくつろげるよう配慮している。また、生活感や季節感を味わえるように、行事の時の写真を飾るなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者間でのトラブルがないように目配り、気配りをして利用者皆様が居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者様が使い慣れたもの、好みのものなどを活かしている ・どこに何を置けば良いかを本人の意見を大事にし、家族と相談しながら過ごしやすい環境を作る様心がけている		利用者の使い慣れた整理だんすや新聞を読むための小さな机を持ち込んでもらったり、家族の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個人の意見を大事にし、その人らしさを大切に活かして頂けるように自分で出来ることは自分で、足りない部分はスタッフで補うようにしている			